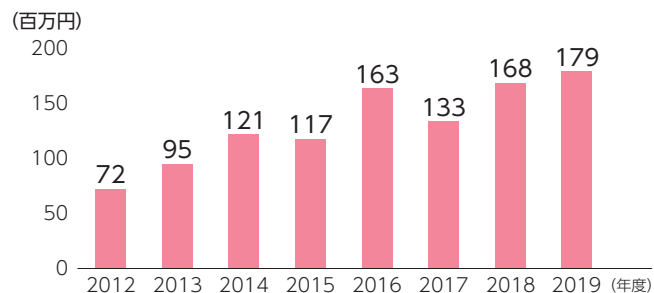


社会貢献会計から見る 日軽金グループの社会貢献活動

8年で倍増した社会貢献活動

● 社会貢献に関わる支出額



日軽金グループでは、社会貢献活動が一時的な活動や寄付に終わることなく、地域に根差した活動や社会全体に広く貢献できるプログラムをグループ全体で導入し、推進してきました。リーマンショックや大規模災害の起きた年も変わることなく活動を継続してきた結果、社会貢献会計の規模は当初から8年で支出額倍増という形で表れています。

2019年度は、353の地域活動プログラムに参画し、支出額は179百万円となりました。

次の20年を社会とともに歩む

日本軽金属㈱は2019年に80周年を迎えましたが、次の100周年に向け、20年にわたり毎年「子供の未来応援基金」「社会福祉振興助成事業」に寄付を行うこととしました。

子供の貧困対策、障がい者支援に本基金・事業を通じて寄与することは日軽金グループの社会貢献方針に合致するものです。これだけの長期寄付を事前に決めることは日軽金グループにおいても初の試みとなりますが、社会とともに歩む20年を約し、企業活動を行っていきます。

また、本プログラムのスタートから2年目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業にたくさんの応募があり、寄付が役立てられています。

「子供の未来応援基金」

<https://www.kodomohinkon.go.jp/>



「社会福祉振興助成事業」

<https://www.wam.go.jp/hp/guide-jyosei-outline-tabid-178/>



パラスポーツもできる「日軽アリーナ」オープン

日本軽金属㈱苫小牧製造所は80周年記念事業の一環として体育館改修工事を行いました。体育館はグループ社員と家族の福利厚生施設として利用していますが、今回は地域の皆さん、特にパラスポーツ団体への貸し出しを行うことができるような改修を行いました。



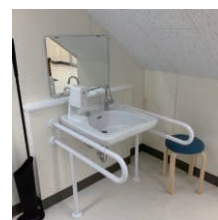
改修をするにあたっては、まず、パラスポーツそのものを知ることから始め、競技施設としてどのような施設が必要なのか、どうしたら利用しやすくなるのかを検討するため、苫小牧市の福祉ふれあいセンター(市内パラスポーツ施設)や市内のパラスポーツ団体の皆さんから話を伺いました。道内の車いすバスケットボール大会や車いすラグビーの日本選手権プレーオフ大会などを見学して、選手、審判、関係者への調査も行いました。選手の皆さんや大会関係者との交流も深める中で、選手や審判の不足、利用可能な施設が少ないなどの課題を伺い、地域の一員として一翼を担いたいという思いが募りました。特に、車いすバスケットボールチームの「苫小牧WBC」とは、練習見学、体験参加など幅広い交流をさせていただき、改修のためのさまざまな具体的なアドバイスをいただきました。

自動ドアやスライドドアへの変更、道路やスロープの拡幅などの周辺環境をはじめ、内部施設にもさまざまな仕様変更を行いました。

車いす競技では競技中にハンドリムを激しく扱うため手が汚れやす。汚れた手を洗うことができるよう車いす対応の洗面台も設置しました。また、休憩室には車いすからも室内を見渡せる観戦用の窓があり、休憩しながら競技を観戦できます。競技エリアの壁には高さ900mmの保護マットを設置し、車いすラグビーや車いすバスケットなどで勢い余って壁に激突しても怪我をしにくいようにしました。

2階には、競技エリア全体を見渡せる観戦スペースやトレーニングルーム、競技講習会、作戦会議にも使用できる部屋も用意しています。

工事は今年3月に完了し、コロナ禍で運用開始が遅れましたが、この7月より本格的に貸し出しを開始しました。サッカーをはじめ、テニス、ハンドボール、ダーツなどの競技に加えて、苫小牧で活動している「車いすバスケットボール」のチームに練習会場として利用いただく予定です。特に、車いす競技は適切な施設・設備がある競技場が少なく、練習場、試合会場の確保に苦労されているとお聞かしています。「日軽アリーナ」がグループ社員だけでなく、地域の皆さまへ、さらには障がい者競技をされる皆さまのお役に立てることを願っています。



車いす対応の洗面台